

●年間指導計画

課題・テーマ	「福島」から「Fukushima」へ									
作成推進校	金山町立金山中学校									
対象児童・生徒	1～3学年（30名）									
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
理科		化学変化と その利用	原発事故と 放射線の特 徴			発電の仕組 み	火山と地震			
社会							日本の資源 とエネルギー の消費	環境問題に ついて考え よう		
総合的な学習の時 間			放射線と再 生可能エネ ルギー学習				再生可能エ ネルギー学 習まとめ	保護者会発 表のリハー サル		
学校行事			環境創造セ ンター、産 総研の見学		福島議定 書への取 組		沼沢第二水 力発電所の 見学	保護者会で の発表		私のいい たいこと 発表会

●実践成果

理科	<p>中学2年理科「化学変化とその利用」では、燃料電池の仕組みを学習し、水素を燃料とした発電方法について理解を深め、「水素キャリア」チームの学習の導入とすることができた。発電の仕組みでは、原子力発電、火力発電、風力発電、太陽光発電の仕組みの学習を通して、「風力発電」チーム、「太陽光発電」チームの学習の導入とすることができた。</p> <p>中学1年理科「火山と地震」では、マグマの学習を通して、地中熱の存在について理解するとともに、「地熱発電」チームの理解を深めることができた。</p>
社会	<p>世界的視野から日本の資源とエネルギーの消費の現状を学習し、再生可能エネルギーの必要性を理解することができた。また、日本国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題を学習するとともに、日本の資源・エネルギーと産業との関係についての理解を深めることができた。</p>
総合的な学習の時間	<p>東京電力福島第一原子力発電所の事故の概要と、その後の放射性物質の飛散とその影響を学習し、福島県の「脱原子力エネルギー」への取組について理解を深めた。また、地球温暖化の原因について、科学的な根拠を基に学習を進め、二酸化炭素の増加と地球の気温上昇の関係性を理解し、二酸化炭素の排出削減の必要性を理解することができた。さらに、「福島議定書」への参加の意義を改めた理解することができた。</p>
学校行事	<p>環境創造センター（コミュタン福島）、産総研福島再生可能エネルギー研究所を見学することによって、東日本大震災時の東京電力福島第一原子力発電所の事故を受けた本県の被害状況と本県が再生可能エネルギーを推進する経緯について理解を深めることができた。産業界の再生可能エネルギーの最新の研究が本県で進められている現実と、再生可能エネルギーに関する最先端の研究内容の素晴らしさを自分の目で確認することで、改めて日本の技術力の高さを理解するとともに、再生可能エネルギーへの転換の必要性を再確認することができた。</p> <p>授業参観での保護者への発表は、模造紙に学習内容をまとめ、わかりやすい発表をすることができた。保護者の方々にも再生可能エネルギーの必要性と有用性を伝えることができた。</p>